

保護者と園が同じ目線で子供の遊びを見つめ、育ちを伝え合うことが大切です

【ブロックで遊ぶ中で考えて……】3歳児
 A児：「家のまわりに動物がいるんだよ。」
 (そのまわりはどうしようかな?)
 A児：「(あっ、いいこと考えた!)これ(星形の木製ピース)を使おう。」
 B児：「ぼくもやる。」
 B児：「ああ、倒れる、あつまた……」
 A児：「もう少し(木片を)離して並べよう。」
 B児：「わかった、このくらいかな……」
 A児：「そおとね、そおと……(うまくできた。)」
 A児、B児：「やったね! かつこいい!」「うん!」



ブロック遊びの中で、友達と一緒に試行錯誤しながら考える力が芽生え、物を組み合わせることで、空間感覚や図形への認識が育まれています。

生き物への興味から、好奇心に満ちあふれたまなざしが生まれます。友達と一緒に感じた痛みや喜びなどの感情は、一人一人の心の育ちに大きく影響していきます。



【小さな生き物を見つけて……】3歳児

A児：「見て、幼虫がいる。」
 B児：「小さいよ。」
 C児：「むにゅむにゅ動いておもしろい。」
 D児：「なあに?」と指でつつくと、幼虫の一部がつぶれた。
 「ああ。」もう!」3人が怒り始め、D児は「しまった」という表情に……
 保育者がそっと触ると、幼虫がかすかに動いた。
 「あれ?」「よかった、まだ動いてる!」
 全員がほっとした様子でにっこり笑った。

保護者の方へ

いつもの遊びや生活の中にも常に新しい発見があります。感じたことを友達や家族に伝え、共に考え、協力し、したいことを実現して、喜びを共感していく生活があります。

遊びを通して、幼児期に育みたい資質・能力である「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」が一体的に育まれていきます。

子供の姿やつづやきからは、様々な学びと豊かな感性を見付けることができます。

- ◆ 子供と一緒に遊んでみませんか。
- ◆ 子供のつづやきに耳を傾けると、その子なりの発見や驚き、気付いていることが分かります。
- ◆ 子供のまなざしや表情をよく見ると、感じていることや気持ちが伝わってきます。

園の方へ

—保護者の声・保護者の願い—

- 園が、掲示や講話等で、日頃の子供の遊びの様子や会話・つづやきなどの発信があると、信頼感が増し、安心もできます。
- 友達とのトラブルはとても心配です。園から遊びの状況や子供同士の思い、それぞれの子供の発達段階などを具体的に教えてもらえると、親としてどのように見守ったり、言葉をかけたりしていくとよいか、考えて対応することができます。
- 遊びの過程や今後の見通しなど、園が目指している取組について教えてもらえると、子供との会話がはずみ、親子の触れ合いの時間を一層楽しめるようになります。

【平成30年8月17日(金)「平成30年度 子育て・幼児教育に関する講演会」参加保護者の声】

保護者の願いを受け止めながら園生活を通して育つ発達の姿を、分かりやすく、工夫して発信しましょう。

- ◆ 保護者には子供の具体的な言動を基にして、子供が学ぶとはどのようなことかを分かりやすく説明し、幼児期にふさわしい教育の在り方を伝えましょう。
- ◆ 子供の発達する過程は一人一人異なることを伝え、各段階(年齢)で大事にすべきことは何かを保護者と共通理解し、連携を深めましょう。

<平成31年3月発行>

幼児期の育ちを支える幼稚園・保育所・認定こども園と家庭との連携の在り方について

—「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにして—

平成30年度から幼稚園や保育所等の教育や保育の基準である「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が全面実施となり、その全てに「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」(※以下「**10の姿**」と表記)が示されました。「**10の姿**」は、小学校教育及びその後の教育へとつながる幼児期に育みたい資質・能力の具体的な姿です。それらは、これまでも各園が大事にしてきた幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることで育ちます。園と家庭が、「**10の姿**」につながる幼児期に大事にしたいことを共通理解して、発達の段階にふさわしい経験が積み重ねられるようにしていくことが大切です。

このリーフレットは、子供の遊びに潜む学びの姿を「**10の姿**」の視点から捉え、保育者と保護者が同じ目線で子供を理解し、見守り、子供自らの育ちを支えていくための、**連携の一助として活用していただけるように願って作成しました。**

「遊びや生活の中に見る育ち」
 —水風船ヨーヨーが作りたいたけど—
 年長組(5歳児5月)の例



「親子ワニだ」

保育者や友達とプールで水遊びを楽しんでいる。「ワニさんだよ。」という保育者の背中にA児が飛び乗ると、力持ちの保育者は「のっし、のっし」と進んでいく。ほくも、私も、と次々に背中に乗って子供たちは大喜び。保育者や友達と一緒に、様々な動きを楽しんでいる。【4歳児 7月】

◆ 身近な人と安心して楽しく遊ぶ中で、体を動かす気持ち良さを感じている。



- 充実感をもつ
- 自分のやりたいことに向かう
- 心と体を十分に動かせる
- 見通しをもって行動する
- 自ら健康で安全な生活をつくり出す

健康な心と体

「逆上がりができるようになりたい！」

逆上りをする5歳児にあこがれて、自分からやってみようとして挑戦する。互いに誘い合って「今日も一緒に練習しよう。」と鉄棒に走っていく二人。手にまめができるほど頑張っている。【4歳児 6月】

◆ 自分からしてみたいくなるような環境があり、励まし合う友達がいることで繰り返し挑戦する気持ちになっている。



- 身近な環境に主体的に関わる
- 様々な活動を楽しみ中で、自分から進んで行うことを自覚して取り組む
- 自分の力で行うために考え、工夫する
- 諦めずにやり遂げることで達成感を味わう
- 自信をもって行動する

自立心

「ほくたち、海賊。大砲、用意、打て〜！」

段ボール箱で海賊船作りが始まった。船が出来上がると「どくろの旗がいる。」「いかりを作らなくっちゃ。」など、友達とアイデアを出し合いながら道具も増えていく。船長や乗組員などの役割分担をして、イメージを言葉やしぐさで表現しながら友達と遊びを進めている。【5歳児 7月】

◆ 友達と遊びのイメージを共有し、工夫し、協力して、つくり上げている。



- 友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有する
- 共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりする
- 充実感をもってやり遂げる

協同性

「頑張って走ってたよ」

リレーの後「Aちゃんのせいで負けた。」という子がいた。A児は下を向き涙を浮かべた。A児がリレーの後でB児と走る練習をしていたことを保育者が伝えると、「知ってる。見た。」とC児。D児はA児を気遣い「Aちゃんだって、頑張ってたよ。昨日より手をいっぱい動かしていた。」とみんなに伝えた。【5歳児 10月】

◆ 温かいまなざしで状況を伝達すると子供から「快」の感情が生まれ、ふさわしい判断力が引き出されてくる。



- 友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かる
- 自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりする
- 相手の立場に立って行動する
- きまりを守る必要性が分かる
- 自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付ける
- きまりをついたり、守ったりする

道徳性、規範意識の芽生え

「からくり人形、すごい！」

地域のからくり人形の操作を間近で見ながら「すごい!」「どうやってこの仕掛けを作ったのかな?」と手元と人形の動きを交互に眺めるまなざしは真剣だ。地域の人に、祭りに関わりの深い屋根神様が園周辺の家にまつてあることを聞き、さらに関心をもった。【5歳児 10月】

◆ 地域の人と触れ合う体験によって親しみを感じて関わっている。



- 家族を大切にしようとする気持ちをもつ
- 地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、地域に親しみをもつ
- 相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じる
- 園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れる
- 情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動する
- 公共の施設を大切に利用して、社会とのつながりを意識する

社会生活との関わり

生活や遊びの中で一体的に育む

『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』とはそれぞれの項目において「このようにする」「この活動を行う」という**目安や目標ではありません**。平成29年3月に告示された幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の原文はどの項目においても「**~するようになる**」という文末になっており、日常の子供の姿をよく見ると、このように学び、豊かに感じ、育っていることが分かっていくという視点として示しています。そのことを踏まえて、一人一人の子供に必要な援助や関わりをすることが大切です。

思考力の芽生え

「カエルが跳ねた」

折り紙のカエルに扇風機の風が当たり、少し動いた。風の当たり方によってカエルは跳んだり跳ばなかったりしたが、「こうすればいいよ。」とA児がカエルに「ふうっ!」と息を吹きかけると勢よく動いた。しばらく遊んでいると「競争しよう。」とカエルを一列に並べ、息の吹き方を加減しながら、繰り返し競い始めた。【5歳児 6月】

◆ 風や空気の流れなど偶然の出来事から「息を吹きかけて」という折り紙のカエルを動かす方法を思いつき、友達と競うことを繰り返し楽しんでいる。



- 身近な事象に積極的に関わる
- 物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりする
- 考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむ
- 友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付く
- 自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わい、自分の考えをよりよいものにする

自然との関わり・生命尊重

「体がふにゃふにゃのところを食べられている」

脱皮したザリガニの抜け殻を見付け、それが何なのか数人で話していると、強そうなザリガニが他のザリガニをはさみでつかんだ。A児が助けようとザリガニに触ると「柔らかい。体がふにゃふにゃのところを食べられている。」とびっくりしたように話した。それからみんなで話し合っって飼育の仕方について調べ、共食いしないように飼うことになった。【5歳児 6月】

◆ 生き物や植物は大切に育てると、色々なことに気付き、親しみを持ち、愛着が湧いてくる。



- 自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取る
- 好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まる
- 自然への愛情や畏敬の念をもつようになる
- 身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付く
- 身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚える

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

「葉っぱが3枚だからシロツメクサの仲間だよ」

「かわいい花を見つけた。」と黄色い花を見せたA児。それを聞いたB児が「葉っぱが3枚だからきっとシロツメクサの仲間だよ。」と言うと、「本当だ、同じ葉っぱだ。」と驚いた表情を見せた。「調べようよ、黄色い花で、葉っぱが3枚だから……。」と二人は図鑑で調べ、A児が「分かった。カタバミだ。」と気づき、二人は顔を見合わせて笑い合った。【5歳児 4月】

◆ 知りたいと思う気持ちから数や文字に関心をもって見たり使ったりする。



- 遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねる
- 標識や文字の役割に気付く
- 自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつ

言葉による伝え合い

「ドレスからスカートに変身したよ」

シロツメクサの花弁が垂れ下がっている様子に気づき「ドレスみたい。」とくると回して見せたA児。B児も「バレリーナみたいね。」と一緒にくると回す。C児が茶色く枯れ、垂れ下がっているシロツメクサを見つけ「見て、こっちはドレスからスカートに変身したよ。」と言うと、A児がその花に触り「触るとしゅりしゅりするから『しゅりしゅりスカート』だね。」と笑顔で答えた。【5歳児 5月】

◆ 思いのままのイメージを言葉で表し、友達と伝え合い、受け止め合う楽しさを満喫している。



- 保育者や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しむ
- 豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことを言葉で伝える
- 相手の話を注意して聞き、言葉による伝え合いを楽しむ

豊かな感性と表現

「いい音がする！」

砂場で遊んでいるとき「いい音がする!」とおもちゃのふるいをスプーンでこすってガリガリという音を鳴らした。また、ポウレンに枯れた花を入れ、上下に振って「これはかわいい音がする。」と発見した。

音を気付くことが楽しくなり、様々な物をたたいたり、こすったりして音探しを楽しんでいる。それぞれが、音の出るものを見つけてリズムミカルに鳴らしている。保育者がお客さんになってその場の子供たちと一緒に演奏会を楽しんだ。【5歳児 4月】

◆ 遊びの中で見つけたいろいろな音に関心を寄せ、表現することを楽しんでいる。



- 心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる
- 様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付く
- 感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりする
- 表現する喜びを味わい、意欲をもつ